

令和 7 年 4 月 24 日市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから、市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

よろしくお願いします。今日は、発表案件は 2 件です。「インターナショナルスクールの誘致に向けた候補地の選定」と、それから「静岡シチズンカレッジこ・こ・に」、これの受講者募集というものです。

最初に、インターナショナルスクールの誘致ですけれども、候補地を選定いたしました。このインターナショナルスクールですけれども、これは静岡市内外の子どもたちにとっての学びの選択肢を広げるという教育的側面と、それから高度外国人材の子どもに対する教育環境が整う、それによって、海外から高度人材が静岡に来てくれるということに寄与する経済的側面、この二つがあります。

静岡市では昨年の 5 月、事業者によるインターナショナルスクール開設を支援するために、静岡商工会議所と連携して、相談窓口を設置していました。その窓口で昨年の 9 月、ある事業者からインターナショナルスクール開設の提案がありました。具体的には、スクールを開設したいという意向の表明と、具体的な場所として、現在、静岡県が所有している「果樹研究センター跡地」、清水区の駒越西ですけれども、果樹研跡地と言いますけれども、そこが最適用地であるとして、その確保に向けた支援要請がありました。

提案の内容を検討した結果、市としても、果樹研跡地はインターナショナルスクールの適地であると判断いたしました。もう一つ、ここには書いてありませんけど、このインターナショナルスクールの設置について、十分事業の可能性があるということも確認いたしました。したがって、今後、市は土地の確保に向けて、土地の所有者である静岡県との協議を開始します。

果樹研の跡地ですけれども、ここは以前から地元の自治会等から、防災機能を備えた場所となるような要望をいただいております。インターナショナルスクールの開設および跡地活用にあたっては、地域の防災機能の確保にも活用できるよう、関係者と調整していきたいと考えております。

場所ですね、はい。場所は、ここにありますが、清水区駒越西になりますけれども、三保半島の付け根あたりにあたります。果樹研、静岡県果樹研究センターというのがあったんですが、それが移転しましたので、そこがずっと空いた状態になっていました。ここは富士山もよく見えるところ、それから海も

よく見えるところで、非常に見晴らしも良いところですので、それがインターナショナルスクールとして競争力があるということではなかろうかと思います。ここで開設する予定の、ちょっと下げてください。想定されるインターナショナルスクールの概要ですけれども、まず清水区ですけれども、今、海洋関係の研究開発、あるいは次世代産業の発展が見込まれています。インターナショナルスクールが開設されると、高度外国人材を引きつける要素の一つになると考えています。

この場所、非常に、先ほど申しましたように、立地条件が良いですので、県外あるいは海外からも入学を誘引するような、世界最高水準の国際教育を提供するインターナショナルスクールの開設を想定しています。

開校時期ですけれども、まだ事業者の判断となりますけれども、現時点では2028年9月の開校を想定しています。今後のスケジュールですけれども、関係事業者、地元自治会などとの協議ということですが、いろいろご相談を始めておりますので、県と調整をして、今年度中に、この果樹研跡地を取得できるように協議を進めていきたいと考えております。

まず、インターナショナルスクールについては、以上になります。

次に、静岡シチズンカレッジこ・こ・に 2025 の受講者募集ですけれども、シチズンカレッジこ・こ・にというのは、人気の講座ですけれども、少しというよりも大幅に、今回、内容を変更しました。こ・こ・には、2016 年からやっておりますけれども、市民の皆様を対象とした人材養成講座ということになります。ただ、今後は、やはり、今、DXの人材だとか、スタートアップであるとか、やはり新しい高度専門人材が求められていますので、そういった人材を養成するための講座を新設するなど大幅な見直しを行いました。5月から、受講生の募集を開始いたしますので、ぜひご覧いただければと思います。このようなこ・こ・にの講座案内というのもありますので、こういうのを参考にいただければと思います。

少し振り返ってみますと、これまでのこ・こ・には何をやっていたかということですが、目標とする人材像を「市民自治によるまちづくりを担う公共人材、シチズンシップに富んだ人材を養成する」、達成水準も「公共意識、シチズンシップの醸成」として、各種講座を開講していました。理念としてはわかるんですが、達成水準が「公共意識の醸成」というのは、ちょっとわかりにくいんじゃないかなと思いますが、講座の内容は非常に良いものですので、延べ3,700人以上の修了生を輩出して、修了生の皆さんが地域や社会の中で活躍していただいております。まさに公共意識を持って、社会の中で貢献をしていただいているという状況になります。

今回の見直しですけれども、今、この地域課題や社会課題が、静岡市では山積してしまっていて、それを社会の共創、みんなの力で解決していくということが求められています。それから、企業等においてはDXなど、新しい時代に求められる能力や技術を備えた人材が不足しているという状況にあります。したがって、今までのような、公共意識の醸成というものではなくて、もっと実践的な人材育成という講座に変えるというものです。

目標とする人材像と達成水準ですけれども、まず、目標とする人材像は「地域経済と市民生活の両面で持続可能な発展を遂げていくための主役、原動力となる人」ということです。つまり、意識の問題じゃなくて、実際にその技術力、あるいは能力を持った人を養成をするということです。達成水準も、「実際に地域で社会で活躍する人材の養成」といたします。

次のページにありますけれども、内容ですけども、今、生涯学習だとかキャリア教育だとか、そういったリスキリングとか、リカレント教育ということが求められていますけれども、そういった面で、これまでキャリアチャレンジ学部11講座というのがありますけれども、DXの推進だとか、スタートアップ講座、こういったものを8講座、新設いたします。

そのような中身で変えていきますので、ぜひぜひ、実際に活躍できる技術力であるとか、能力が習得できる講座を用意していますので、どんどん、どんどん応募していただき、受講していただければと思っております。

発表案件は以上です。ありがとうございました。

◆司会

それでは、まずは発表案件についてのご質問を皆様からお受けをしたいと思えます。発表案件についてのご質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。お願いします。インターナショナルスクールの方にちょっと質問なんですけれども、まず想定されている、この学校の年齢層というか、何かそういったものを、まず教えてください。

◆市長

はい、事業者がいろいろ検討されると思いますけども、今、事業者の方から聞いているのは、14回と言いますか、まず年中から高3までということになりますので、年中・年長で2年、それから小・中・高で、6-3-3で12になりますので、全部で14ということになります。

ただ、最初から、全クラス、全学年を募集するということは、たぶんないと思いますので、こういった募集の仕方になるかはわかりませんが、最終的には14年の段階があるという状態になると思います。

規模としては、たぶん100人くらいではないかな、1クラスじゃなくて、1学年100人くらいではないかなという想定ですけども、まだ、これはこれから事業者がいろんな検討をされると思います。

◆テレビ静岡

すいません、もう1点。その事業者なんですけれども、今言える段階で、市内なのか、それとも県外の事業者なのか、こういった方が手挙げをされているのかというのを、ちょっと教えてください。

◆市長

はい、市内の会社ですね。市内の会社の方が複数でチームを組んで、この事業をやっていくということではないかなと思います。インターナショナルスクールですけども、学校の運営自体は、スクールの元々の運営、授業をやると言いますか、実際に運営をやる場所と開設する場所というのは、また別になりますので、そういった点で、開設、開校する事業者としては、市内事業者ということになります。

◆テレビ静岡

すいません、最後に。市内、今でもフリースクールなどいくつかあるかと思いますが、先ほど富士山があることが、かなり競争力つけるところになるんじゃないか、とおっしゃいましたが、市長が考える静岡市として、こういった内容の学校、こういったものを目指す学校が今後必要になっていくかをお答えください。

◆市長

はい。静岡市は、実は今すごく留学生が多いんです。インターナショナルスクールですので、今は小・中・高になりますけれども、専門学校生、大学生ということになると、今3,000人近くが学んでおられます。ちょっと言い方はまだ確定してないですけども、私自身としては、国際教育都市、静岡市というのは、国際教育都市を目指してよいのではないかなと思っています。

現にもう3,000人近くの方々が、静岡市で学んでいる、外国人が留学生として学んでいるという状況ですので、十分、そういった国際学園都市、国際教育都市、あるいは学園都市、国際教育都市の方がよいですね、と言ってもよいような状況

になりつつあるんじゃないかなと思います。

やはり、そこが専門学校であるとか大学だけではなくて、小・中からずっと、あるいは保育園・こども園からずっと、幼児教育のところから高校教育までも充実しているということが大事ですので、こういったインターナショナルスクールがあることによって、全体としての多様な教育、国際的な教育が可能になるんじゃないかと考えています。

◆テレビ静岡

ありがとうございます。

◆司会

はい、静岡第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。よろしくお願いします。先ほどの質問に関連してなんですけども、一応、確認ですけど、インターナショナルスクールは、日本人の方も入ることができるという学校になるということでしょうか。

◆市長

むしろ日本人が中心で、それに外国の方も来られる、そういうことになると思います。

◆静岡第一テレビ

もう一点、一応、まだ、たぶん決まっていないと思うんですけど、授業とかは英語でやるとか。何かそういった、何かこういった形になるとかっていう…

◆市長

授業は全て英語です。全てというのは、インターナショナルスクールの場合、いろんなインターナショナルスクールがありますが、今想定しているのは、最高水準ということですので、そういったところだと、授業はずっと英語でやりますけど、もちろん日本語学習の時間だとか、そういったものもありますので、全てが英語でやられるわけではないですけど、基本的な言語としては英語になります。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。

◆司会

はい、静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。私もインターナショナルスクールの関係で、いくつか質問させてもらいたいんですけども、まず、この事業者については、9月、去年の9月に提案があった事業者と直接協議していくということで、特に公募とかはしないということになるのでしょうか。

◆市長

もう公募した状態です。相談窓口を作ったということが、公募ということになりますので、興味ある方はご相談ください、ということになっています。

◆静岡新聞

交渉というか、協議する事業者も選定したっていう段階だってことですか。

◆市長

選定というか、正式な公募をしているわけではないので、なぜ公募でないかという、つまり開設するのは市が開設するわけではありませんので、事業者が開校する、それを市は下支えするということですので、そういった点で公募という形ではなくて、開設、開校のご希望があればご支援しますという形で、公開をした、相談窓口を作ったという状況になります。

それに対して、一つのグループから、実際には一つだけではなくてあったんですけども、現時点で具体的になっているのは、この1者、1グループということになりますので、それについてお話があれば、先行者として来られていますので、それについてご支援するという状況にあります。

◆静岡新聞

基本的には、提案、具体的な提案があったひとつの事業者と、開設に向けて具体的に協議をしていくということになるということですか。

◆市長

そうですね。協議といいますか、支援をしていくということになります。

◆静岡新聞

県から、果樹研跡地の土地の取得をできるよう協議するということですが、これはその土地を静岡市が購入するということでもいいのでしょうか。

◆市長

それについても、静岡県と協議が必要かなと思っています。あとは事業者がどういう使い方を希望するかということですので、市としては仮に取得したとしても、市として財政的な負担にならないような形ということです。当然、市が取得して借りていただく場合は、貸付料という形で取りますし、あるいは何年か後に売却ということもあるかもしれませんが、それは事業者としての意向もあります。

県との関係で言うと、やはり市が公共的な形で、インターナショナルスクールですけど、確かに開設するのは民間事業者ですけども、教育の多様性というところからすると、市としての行政的な目的もありますので、そういった点で市または土地等利活用推進公社、ここが取得するという形態もあるんじゃないかと思っていますが、いずれにしても県の意向というのもありますので、例えば、市でないと売れませんよという、市がこれを買うということもありますので、そこはこれから県と協議になります。

◆静岡新聞

難波市長が、過去、去年の 12 月とかの講演とかで、インターナショナルスクールの開校に向けて、市が土地の基盤整備なんかは協力するかもしれないがというようなことをおっしゃったこともあるんですけど、そういった市の関わり方というのは、想定されているのでしょうか。

◆市長

基盤整備とは、この場所になると、今、すでに道路もあって、それで道路からすぐ中に入るとい、もともと果樹研があったわけで、建物も建っていたわけですので、あまり基盤整備は必要はないんじゃないかなと思っていますけれども、ただ、地域のため、単にインターナショナルスクールだけじゃなくて、地域にも活用していただきたい、地域も使えるような状態というのも大事だと思っていますので、そのためには、市が少し何か整備する、施設整備をするというのはあるかもしれませんが、それも事業者とこれからいろいろ話し合っということになります。

◆静岡新聞

すいません。最後です。世界最高水準の国際教育を提供する、提供することを想定されているということですが、これは運営事業者は市内の事業者で作られるとして、誘致する学校の教育っていうんですかね、っていうものは、ヨーロッパの伝統的な学校なんかってのが想定されるんでしょうか。

◆市長

そうですね。寄宿舎といいますか、ボーディングスクールですかね。宿泊じゃなくて寄宿しながら、その建物、学校の中にそういう寄宿するところがあって、そこに住みながら学校に通うという形態ですね。それも含めたようなスクールになると思います。

ただ、他のところを見ていると、日本だけではなくて、海外のインターナショナルスクールなんかを見ても、必ずしも寄宿舎だけではなくて、近くに家族で移住してきて、家族のもとから通うという、そういうこともありえますので、静岡市として、実はそこが経済効果としては結構大きなところで、移住して下さって、そこに住みながら学校に通うっていうことがありますので、そういった経済効果もありますけれども、いずれにしてもそういう寄宿と、それから通学を組み合わせたような学校、ヨーロッパの伝統的なそういう寄宿舎を持ったようなインターナショナルスクール、そういったものを、今、予定しています。

◆静岡新聞

すいません。追加で最終、最後ですが、生徒が最終的には1,200人ぐらいの規模になるということだと、1学年100人ぐらいで、12学年とかですが、そうすると教職員のスタッフの規模としては、どれぐらいの人数を想定されているんでしょうか。

◆市長

ちょっと正確なところは言いませんけど、教職員、あるいは、そこでいろんなサービスをする方を含めると300人を超えるんじゃないかな、それぐらいの雇用が生まれるんじゃないかなと思います。

基本は、先生方はほとんど、ほぼ全員外国人ですので、その外国人の方も、先生方も、どうでしょうね、50人ぐらい、100人ぐらい、先生で100人ぐらいかな。それから、その他のいろんなサービスをする方で200人とか、300人ですね、それぐらいの人数は来ていただけるのではないかなと思っています。来ていただくというか、それぐらいの人数が、必要な学校になると思います。

◆静岡新聞

最後に、世界最高水準と言いますと、普通の、他の国内の他の事例なんかも参考にすると、2年間の授業料っていうと、だいたいどれぐらいの幅で想定されるものなのでしょうか。

◆市長

これは、何かいろいろと、今、あるようですので、ちょっとわかりませんけども、最近開設されている学校ですと、年間400万円とか、それぐらいじゃないかなと思いますけども、300万円から400万円とかではないかなと思いますけれども、ここがどういう水準になるかわかりませんが、あとは寄宿する場合については、それに対してまた費用がかかりますので、寄宿される場合は相当な費用がかかると思います。

それから寄宿されなくても、移住をしてきて、そこから通われるということになりますので、そういった点でもかなりの費用はかかると思います。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい、日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

すいません、お願いします。同じくインターナショナルスクールについて、浜松市もインターナショナルスクール誘致を進めていると思うんですけども、県内に2つってなると、違いとか、どう差別化していくのか教えていただけますか。

◆市長

はい。それぞれ考え方があるんじゃないかなと思います。この間、鈴木知事ともお話をいたしましたけども、静岡市が、今、開設について、いろいろ取り組んでいるというお話と、それから浜松市の話もありますし、今たぶん東部でもいろんな動きがあるんじゃないかなと思います。

ですから、東中西に1つずつとか、2つずつとか、それぐらいあるというのは、そういうことはあり得るんじゃないかなと思います。それぞれ、地域の状況が違いますので、浜松は浜松で必要とされる人材だと思いますし、それから静岡市の場合は研究者のご家族とか、そういった方を想定したことになると思います。

し、それから東部で言うと、またこれはより首都圏に近いという形になりますので、それから東部については研究者がかなり多いですから、そういったことになるかもしれないですけども、そういった方を対象とするかもわかりませんが、それぞれ特色のある教育をするインターナショナルスクールが県内にいくつかあるというのは、県にとっても良いことではないかなと思っています。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞です。インターナショナルスクールの関係ですけども、先ほど、今の国際教育都市だったりとかっていう教育面でのご期待のお話がありましたけれども、先ほどの移住の話にも関連するかもしれませんが、多文化共生だったりとか、先ほどもありました海外の高度人材の受け入れっていうところの観点から、今、期待されているところを教えてください。

◆市長

はい、やはり、今、「留学生が日本一住みやすいまち静岡」というプロジェクトチームを作ってやっています。やはり、多様な人材が静岡に来ていただいて、そして、できればこちらに住んでいただいて仕事をする、そういったことが非常に、地域の活力にとっては大事じゃないかなと思っています。

静岡というのは非常に気候も良くて、交通の便も良く、住みやすいところですから、そういった点で、あるいは自然豊かな風景も美しいので、外国人を惹きつける要素は非常に高いと思っています。

そういったことがあるものですから、静岡にはそういった国際教育都市としての潜在力は極めて高いと思っていますので、そういった方々に来ていただいて、学ぶだけではなくて、その後はこちらでいろんな仕事をしていただくということが、地域にとっては、特に人口減少の人手不足という状況がありますので、その人手不足を補うという点でも、外国人材というのは本当に大事ではないかなと思っています。

それから、留学生の段階で、留学している段階で、おそらくインターナショナルスクールの学生はアルバイトはしないと思いますけど、今、留学生 3,000 人と申しましたけども、3,000 人の方々が、やっぱりいろんなアルバイトをされて

いますので、それが地域にとっては、人手の確保という点では大きな効果があるのではないかなと思っていますので、そういった点で多様な人材がここに来ていただくというのは、非常に歓迎すべきことだと思っています。

◆司会

その他、いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

すいません、国際のインターナショナルスクールの関係なんですけども、国際教育都市を目指すということになりますと、今回のインターナショナルスクールの誘致も、この1ヶ所には限らず、また相談の窓口なんかは、ずっと引き続き開設していくような状態になるのでしょうか。

◆市長

そうですね。まだ開設はしている状況になりますけれども、ただ、そんなに、ものすごく数が増えるということはないと思います。小・中・高ですので、そこがものすごい数になるということはないと思いますので、あと増えても1つあるかぐらいだと思いますけども。

◆司会

その他、いかがでしょうか。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

インターナショナルスクールですけれども、土地は市が取得をするをいたしまして、校舎となる建物というのは、どのように建設するのか、教えていただけませんかでしょうか。

◆市長

はい、それは事業者が全て建設することになります。

◆朝日新聞

そこに、市の支援といいましょうか、そういったことはお考えでしょうか。

◆市長

ないですね、はい。独立採算でやっていただくということになります。

◆朝日新聞

はい、併せまして、防災機能を備えたということなんですけども、これは具体的には、どういったことが想定されますでしょうか。

◆市長

あの辺り、高台になっていますので、とりわけ津波が発生したときに、高台で避難をしていくという、第一次避難は近くのところに避難していただきますけども、さらに安全なところということで、より高いところに避難されるという方もいらっしゃると思いますから、そういった面で、そういった津波であるとか、あるいは大規模火災、そういったときの避難地ということが想定されます。災害発生直後ですね。

それから、もう少し長い目で見ると、その中で、例えば、食事の提供だとかいろんなことができますので、当然、学校ですので、給食の提供とかしていますので、キッチン機能を備えていることになりますので、そういったものを活用しながら、そこで何らかの形で避難者に対して支援をするような可能性もあると思います。

ただ、それについては、事業者も学校として機能しているわけですので、それとの関係もありますので、調整は必要だと思っていますが、ただ、場所が 68,000 平方メートルもありますので、いろんな形で、防災的な面で使える場所は、まず面積があるということが大きいと思います。

◆朝日新聞

わかりました。ありがとうございました。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、発表案件は以上とさせていただきます。

続きまして、幹事社質問に移りたいと思います。静岡第一テレビさん、よろしくお願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。幹事社質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。JR 清水駅のすぐ近くでは、先日、駿河湾フェリーのターミナルがリニューアルしまして、河岸の市いちば館もリニューアルされるなど、清水駅・清水港周辺が新しい景色を見せて、新たな賑わい創出にも期待が集まっています。そこで 3 点伺いたいと思います。1 点ずつ伺わせてください。

まず、リニューアルへの期待と、市として今後の清水の観光振興へ取り組むことがあれば、教えていただけますでしょうか。

◆市長

はい、ありがとうございます。今、お話ありましたように、何か清水変わってきているなという、将来も大きく変わるんじゃないかなという印象を持っていただけるようなことになっているんじゃないかなと思います。それが非常に大きな効果じゃないかなと思います。

これからも、どんどん、どんどん新しい投資が入ってきて、観光地としての魅力も向上してくる、どんどん良くなってくるという、皆さん、そういう気持ちになっておられるんじゃないかなと思いますので、そこが結構大きいと思います。

「このまち、これは変わらないな」と思うのと、「いやいや、これからものすごく、このまちは発展していくぞ」という感じで、人の行動が変わってきますので、もちろん投資をしたりする人も変わってきますので、ああいった形で駅の目の前で、投資が入って変わっていくというのは、非常に良い効果があると思います。もうちょっと現実の、具体的なところで言うと、観光面の経済効果のようところで言うと、やはり、フェリーターミナルが清水駅と直結しましたので、そうすると、今までフェリーってどちらかという車が主でしたけど、今度は公共交通機関、とりわけ鉄道で来て、船にそのまま乗っていけるというのは、ものすごい強みだと思います。

インバウンドについて、外国人旅行客に対する取り組みというか、外国人の旅行客の比率が非常に少ないというところは、静岡市の観光の弱点になっていますけども、新幹線で静岡駅に降りていただいて、そこから10分で清水駅まで行けますので、そこから歩いて3分。ですから、新幹線を降りて15分後、ぴったりでダイヤが合うわけじゃないですけど、15分後にはフェリーのところに行けるという、これはものすごく大きな効果だと思います。しかも、そこに船だけではなくて、河岸の市がリニューアルしていますから、美味しい食事もあるということで、美味しい食事と船旅が楽しめるという新しい観光としての魅力、これが大きいと思います。

ですから、フェリーをどう捉えるかですけど、移動手段として捉えるのではなくて、船旅を楽しむ船ということで非常に期待ができると思います。河岸の市で食事をしていただいて乗ってもらってもいいですし、あるいは河岸の市で、例えば、海鮮丼を買って船の中で船旅とともに楽しむということもありますし、それから、逆に言うと、今度は伊豆から来た人が、今度はフェリーに乗って、この清水から新幹線でまたどこかに行くというところですよ。

ですから、そういったことが非常にできるようなものになると思いますので、

観光面でも非常に大きな効果があると思っています。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。2 点目です。そうした賑わい創出にも大きく変わってくる製油所跡地に検討されている新スタジアムに関して、現在の進捗がちょっと見えてこないところもありますが、今、現状を教えてくださいませんか。

◆市長

はい。清水駅の東口については、ENEOS さんお持ちの土地については、スタジアムという面よりも、まずあそこで基盤整備、土地として使える状態にしないといけないわけです。今、タンクが建っていますので、タンクを撤去して、そして、商業地として使えるような状態にしていくというのが、一番最初になると思います。

それについて、今、ENEOS 社と具体的な協議をしていますけども、まず土地を生み出す、活用できる土地を生み出すという点で、区画整理事業、これで行うことが有力だと考えています。ただ、この区画整理事業については、いろいろな事業手法がありますので、当然、所有者が中心になって、土地の所有者が中心になってやるんですけども、そのやり方はいろいろありますので、今は ENEOS 社と区画整理事業で行うことを前提として、どういうやり方がよいのかというところを、具体的に協議しているということになります。

当然ですけど、事業をやる場合はリスクがありますので、大事なのはリスク分担をどうしていくかとか、あるいは収益が出てきますから、その収益をどういう形で分けていくかとか、あるいはそのリスクがどのくらいあるかとか、その辺の見込みをしっかりと立てないと事業なりませんので、今、事業化に向けて最終的な調整をさせていただいているという状況にあります。

その後、そこがスタジアムになるかどうかは、今度はその土地を使って、誰がどういう形で事業をするかで、想定されるのは、スタジアムではなくて、スタジアムシティのような形で、例えば、ホテルもあり、商業施設もあるような形で開発をしていくということもありますので、そちらは、また次の段階にということになります。

もちろん、次の段階で、どう、あそこを利活用していくかがないと、区画整理事業も、土地が売れるかどうか分からない状態ではできませんので、その将来の利活用も含めた形で検討は必要ですけども、いずれにしても、まずは土地を生み出さないといけませんので、事業手法の最終調整段階という状況です。

◆静岡第一テレビ

すみません。最終調整段階と、今、お話ありましたけども、スケジュール感的には、近く何か公表できるものがありそうな話なのではないでしょうか。

◆市長

いや、最終調整になっても、なかなか合意を得るかどうかは別問題で、つまり論点整理は全部できました、さあ、どうしましょうか、という状況にはなっていると思いますけど、じゃあ、それで合意が得られるかどうかというのは、ちょっと別問題なので、そこはまだ時間がどうなるかわからないという状況です。できるだけ早く合意に出したいとは思っていますけれども、まだ、いつまでにとえる状況にはありません。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。続いて 3 点目です。海洋文化施設の進捗も教えていただけますでしょうか。これまでに、26 年度中の開業が難しい旨の発言もされていましたが、現在考えられているスケジュール感も含めてお願いいたします。

◆市長

はい。事業着手をして、供用するのに 2 年はおそらくかかると想定を、元々されています。ですから、今すぐ事業着手をしても、2 年後ということになります。ですから、2025 年ですから、2026 年度末というのが、まだないというわけではありませんけれども、ただ、今すぐ工事着手というわけにはいきませんので、2026 年度末はちょっと間に合わないということになります。2027 年 3 月にできるということはちょっと厳しいじゃなくて、できないと言い切れると思います。今、どんな状況にあるかということですけども、設計ですね、SPC、特別目的会社、株式会社静岡海洋文化ネットワークですけども、そこが設計をしていましたが、設計はほぼ終了いたしました。今、設計を終了したので、今度は費用負担についての協議ということになります。これは元々事業契約書の中で物価高騰をしている部分であるとか、あるいは市の責務によって高騰した分について、あるいは両者の事由、理由によって、コストが上がった分については、協議をして負担するということになっていますので、今、その物価高騰とか、一部設計変更に伴って費用負担が変化していますので、その費用負担について事業者と最終的な調整中ということになります。そこが合意すれば、すでに実施設計の図面は完了していますので、それで建築確認申請も提出中ですので、確認が下りたら、工事着手に向けた準備が整うということになります。ただし、費用負担が合意ができれば、事業着手には至らないということに

なりますので、そこが一番、今、最後のポイントになると思っています。
来月中には最終的に決定する段階になると思っています。最終的に決定というのは、いつ事業着手するかということについて、最終決定が来月にはできると
と思っています。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございました。幹事社からは以上です。

◆司会

それでは、幹事社質問に関連したご質問をお受けしたいと思います。幹事社質問
に関連したご質問、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、その他に、ご質問があればお受けしたいと思います。はい、先に静岡朝日
テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。よろしくお願いします。旧マッケンジー住宅について伺い
ます。民間の事業者がですね、これ、ブライダルなどを手がける会社なんです
けれども、敷地内にレストラン棟などをつくって結婚式に利用したり、あと、
住宅でカフェなどを営業するという計画がありますけれども、この取り組みに
ついて、難波市長のご見解をお願いします。

◆市長

はい、非常に期待しています。旧マッケンジー邸、文化財の関係というと、旧
マッケンジー住宅と呼んでいますけども、この駿河区の高松にありますけれ
ども、これについては非常に素晴らしい洋風建築で、これは市の貴重な文化財
であるとともに、観光資源になるものと考えています。

ただ、マッケンジー住宅一つあっても、単に見学をすると、すごい建物だねと
いうことだけになりますので、やはりそれを確保しながら関連の事業をいろ
いろやっていただいて、そこに、より人が集まるような施設にさせていただく
ということが大事です。その点で公募して、結果、2023年で公募しましたけども、
民間事業者の方、具体的には株式会社ノバレーゼという会社ですけども、そこが
事業をやっていたらということで契約を締結していますので、それについ
て、今、事業が進んでいます。

マッケンジー邸だけじゃなくて、周りにいろんな施設をつくり、例えば、結婚式
場であるとか、レストランだとか、会場を備えたような施設をつくっていただく
ということですので、それが旧マッケンジー住宅と一体となって活用される

ということです。まだ具体的な工事が始まっていませんので、できるだけ早くやっていただいて、全体として魅力が高まればなと思っていますところですけども、今のスケジュールでいうと、2026年3月ぐらいには、新しい形で事業を開始できるんじゃないかと思っていますので、大変期待をしております。今、すでに公開を何度かしていますけども、非常に多くの方に来ていただいているので、1回見ていただくのが良いかなと思います。工事中に、これから事業者の方が工事をされるんですけども、その期間はなかなか中を見られにくいかもしれないので、そうは言いながら、やはり見ていただけるようなこともしていきたいと思っていますが、まず4月25日、今日は24、明日ですね、25と27日、ここで見ていただく、一般公開しますので、ぜひ、ご取材であるとか、あるいは皆様にも、まさに一般公開ですので、足を運んでいただければ、その素晴らしさというのはわかっていただけるとと思います。

◆静岡朝日テレビ

関連してなんすけど、ちなみに難波さんはご覧になったことはありますか。もしあれば、ご感想などあれば教えてください。

◆市長

本当に素晴らしい住宅ですよ。かつての冷蔵庫とか、そういうものがみんな残っているので、やっぱり1900、なんて言ったらいいんでしょうね、1950年だとか、60年代のアメリカの豊かさですよ。キャデラックもありますから、よく映画で出てくるような世界ですよ、アメリカの大邸宅があって、それで大きな冷蔵庫もあって、キッチンも広くて、それでお庭にはものすごいでっかいキャデラックだとか、あるいはステーションワゴンみたいなものがあるみたいなものが映画に出てきますけども、まさにそういう世界を目の前に見ることができるということで、あとは建物自身も非常に文化財としても価値があるものですから、ぜひ一度見ていただけるといいかなと思います。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆市長

個人的にはキャデラックにすごく興味持ちましたけど、動けばいいかなと思っていますんですけど、はい。とんでもない車ですね、はい。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

SBS テレビです。よろしくお願いします。PFAS の件について伺います。調査費を巡って、住民団体が住民監査請求を起こして棄却されたということなんですけども、それを受けて団体が住民訴訟を起こす判断をして、ちょうど今、地裁に書類を提出しているということなんですけども、こういった動きがあることについての市長の見解を教えてください。

◆市長

はい、まさに提出されているということですので、まだ我々としては訴状を受け取った状況にありませんので、コメントは差し控えたいと思っております。ただ一方で、住民監査請求については棄却となりましたので、おそらく同じ内容で訴状を、住民訴訟の訴状を提出されているんだろうと想像しますので、それについては、引き続き、市の考え方をしっかりとご説明していくことになると思います。

◆SBS

基本的に市の考え方が変わるってことはないということでしょうか。

◆市長

それはないですね。監査委員事務局（注：監査委員）がその請求を退けていますが、それについて、請求を退けた棄却ということになりますけれども、それは監査請求をする理由がないということになっております。それは、市もずっと主張していたことですので、その通りかなと思います。

ちょっと具体的に申しますと、PFAS について、濃度が高いところがあるので、市が調査をしました。市が調査したことについては、原因者があるんだから、原因者が負担をすべきではないか、それを、原因者に対して市は負担を求めるべきではないかということですが、それに関してのこの調査は、公共用水域の常時監視業務というのは、静岡市が担っていますので、義務と言いますか、市として当然やらなければいけない義務、責務ですね、それで実施している調査ですので、それは市が費用負担をするというのは当然であると認識していますので、その考え方は、引き続き申し上げていきたいと思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆市長

その他、いかがでしょうか。先に、静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。私もちょっと監査に関わる話なんですけども、静岡市が静岡市の静岡庁舎の新館 3 階に設置しています食堂、茶木魚の契約事務に関わる不備についてお伺いします。2021 年の、2021 年度の監査での指摘を受けて、担当する管財課が、監査委員に担当者に、担当者任せにしない体制を整えたと報告しながら、実際にはそうした体制は整えておらず、担当者任せの状態が続いたままで、2024 年度からの運営に関する契約書を作らないまま、事業者に運営させていたという不備が再び起こりました。監査委員は 24 年度の監査結果報告書の中で、「こうした異常な状態が長時間放置された極めて深刻な事態」と強い言葉で非難しております。

このことについての市長の受け止めと、なぜこうした事態が起きたと考えているのか、原因部分に関する認識があれば教えてください。

◆市長

はい、大変申し訳ない問題だと思っております。とりわけ、実際に起きたこともそうですけども、過去の定期監査で指摘を受けた不備を繰り返して発生させたというところが、より重い問題だと思っております。これらの原因については、もちろん管理監督者、その内部統制といいますか、しっかりとした管理をしていないというところに問題があると思いますが、それだけで済ませる問題ではないと思っております。

管理者の問題というのは、これもずっと指摘されているわけですから、毎年そこについてちゃんとやられているのかどうかということを確認、本人があるいは課長であるとか、そういう人が自ら確認をしないといけませんね、担当者ではなくてですね。それが行われていなかったというところですけども、ただ、それは個人の責務の問題とするんじゃなくて、やはりそういう状態が起きてしまう根底がありますので、そこから考えていかないと、また同じことが起きると思っております。

問題は何かというと、過去の定期監査で指摘された事項について、引き継ぎというか、それが無い、システムがないんですね。ですから、次の指摘された年はその通りでやるんですけども、その次の年に、そこをもう 1 回確認するかと

いうと、確認をしないということも起こりうるわけです。それは担当者も変わり、それから管理監督者も変わるということ、そこで引き継ぎが十分なされていないと、うっかり忘れるということもあり得ますので、そういううっかり忘れるということがあるということを前提に、それを防ぐシステムを作らないと、また何か発生すると思っています。

これについては、よくあるのは再発防止を全所属長に確認するみたいなことがありうるわけですが、それだとまた起きる可能性はあり得るので、やっぱりシステムですね、チェックするシステムというのを作り上げないといけませんので、今、それは副市長と総務局長に指示したところです。

どういうやり方になるかというのは、今、検討中ですが、いずれにしてもそういう個人が何か失敗したり、うっかりしたりしたミスを起こしても、それを発見して是正するようなシステム、これは、例えば工場のラインの中だとか、そういうことで、よくフェイル・セーフとかいう言葉もありますけど、失敗したときにそれを補うシステム作りというのが大事ですので、それを今作るように取り組んでいるところです。

◆静岡新聞

今おっしゃったシステムというのは、茶木魚の一連の不備を受けて、そういった対応を考えていらっしゃる。

◆市長

この茶木魚以外にも、監査の中でいろいろ指摘を受けていますので、茶木魚を大きな事例としつつ、他のところでも起きうるという、茶木魚で起きたことというのは他のところでも起き得ますので、だから、茶木魚のところのそこだけ改善しても、また他のところで起きる可能性があるので、これは全庁的な取り組みとして、そういったことが起きないようにするシステム作りということに取り組んでいます。

◆静岡新聞

すいません。その他、管財課が監査の指摘を受けて、2022年の10月の段階で、監査委員に、係長が「施工管理表を制作するなどして再発防止策を図りました」ということも通知したんですけども、ただ、それが実際にはそういった対応を取られてなかったということなんですが、これは、当時、市長の認識としては、意図してそういった虚偽の通知がされたというよりも、当時は実際にそういった体制が取られたんですけども、引き継ぎをする中でなくなってしまった、そういう認識を持っていらっしゃいますか。

◆市長

そうですね、ちょっと、そこはどういうことで、そういうことにしたのかは、把握していませんけども、やっているつもりだったという場合もあるし、それから、引き継ぎをされなかった場合もありますので、いずれにしてもその両方が起きうるということを前提にやらないといけないと思っています。

虚偽で申請したということでは、やってもいないのに虚偽で申請をしたわけではなくて、やっているつもりだったということではないかと認識していますけれども、いずれにしても、その失敗を補うシステム作りというのが、大事だと思っています。

◆静岡新聞

すいません。最後です。ちょっと違う見方をすると、その担当職員は庁舎管理業務に忙殺されて、こういった契約の締結義務を放置していたということをおっしゃっているようなんですけども、その視点に立つと、管財課の仕事量について、例えば職員数の数が減ったりだとか、業務内容が増えたりしたりして、業務過多になっているような状況というのはあるのでしょうか。

◆市長

ほとんど、市の場合、残業時間が多くて、業務過多の状況になっています。それで、今年度は残業時間を大幅に減らすということで取り組みをやっていきますけれども、それは単に取り組みを、残業時間減らしましょうと言って減るわけではないので、そこは仕事の効率化のシステム作りをしていかないといけないですね。それは、やる必要がない事務をやめるということですけども、よく言われるようなデジタルの力で、電子化をしてやればよいということがよく言われますけれども、そういうDX、デジタル・トランスフォーメーションですね、そういったことをやる前に、まずは今の業務プロセス、業務の過程、これを分析して無駄がないかどうかをチェックして、無駄なところを排除していくというところ、これをやらないと、いくらデジタル化してもいけないわけですね。ですから、全体として、その無駄な仕事をしない、あるかどうかというところ、業務の過程、業務プロセスの見直しをして、無駄を排除していくということを、今、全庁的にしています。

その上で、仕事量が減ってくれば、新しいこと、新しい価値作りもできるし、それから、こういったような、業務量過多でどこかに置いていて、うっかりというようなことも減ってくると考えています。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。はい、静岡第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

すいません、前回の会見でも出ましたが、すいません、改めて伺いたいと思います。市民文化会館にできる遊び場ですけども、明日、メディア向けの内覧会ということと、明後日、オープンということになりますけども、改めてになるんですが、市長が思っている子どもに関する環境について、市が抱えている課題というものをですね、教えていただけますでしょうか。

◆市長

はい、この課題は非常にたくさんあると思っています。それは、例えば医療費の問題もありますし、それから、この間も発表しましたけど、こども園の待機児童の問題であるとか、あるいは教育の問題であるとか、今回はこどもの遊び場、それから、いろいろ課題がある子どもたちに対して、どうやって社会として寄り添っていくか、例えば、家庭の中で、少し居場所がないような子どもたちにどういう居場所を提供していくかとか、あるいは不登校の問題だとか、本当にありとあらゆる問題が山積をしています。

ですから、これをやったら問題解決というようなことはないので、今、そのプロジェクトチームを作って、子育て・教育環境に関するプロジェクトチームを作って、みんな洗い出して、それで一つひとつできるところから変えていくということをやっています。

こどもの遊び場については、以前から静岡市は雨の日に子どもが安心して遊べる場所がないという指摘はずっと受けていましたので、これについては、できるところからやっていく、新しくですね。例えば、焼津のタントクルみたいな素晴らしい施設ありますけども、ああいうものを新しくつくるとなると、それは3年であるとか、4年であるとかかかりますので、今ある施設を使っていこうということで提供している、あるいは民間事業者の方がやってくださるところを活用して、すぐに社会にサービスが提供できるようにしているというところなんです。

こちらの市民文化会館については、3月まで開いていた清水西河内小学校のところ、非常に好評をいただいていたんですけども、そこが新しく、1年後にまたリニューアルするということで、閉めましたので、その代替施設がやっぱり必要

ですので、急遽、この市民文化会館の改修の関係が整理できたので、1年間暫定で、そこを開設しようということになりますが、それ以外にも、まだまだこどもの遊び場については、取り組んでいきたいと思います。

繰り返しになりますけども、それは一つの問題であって、それ以外にも様々な問題がありますので、ついでに言いますと、病後児ですね、病児を、保育園にいる病児が、保育園に預かってもらっていますけど、そこで子どもが熱を出したときに、親がそこに迎えに行くのではなくて、保育士さんが代わりに迎えに行くような、ごめんなさい、看護師であるとかが迎えに行くようなシステムを、今、作ったりしていますので、そういったことを一つひとつ丁寧に解決していくことが必要かなと思っています。

◆静岡第一テレビ

そういった遊び場が少ないという指摘があるということですけども、それに対して、市長は少ないなと思うのか、また、何か、例えば、他の市と比べてデータの、静岡市、やっぱり少ないよっていうデータがあるのかなのか、その辺りってというのはどうでしょうか。

◆市長

データの、少なかつたんですけども開設しましたので、それで政令市の中では、非常に多い部類、あくまで政令市の中では人口あたりのこどもの遊び場面積というのは、多い部類に入っていると思います。科学館のようなもありますし、それから子どもが仕事を学ぶようなところも清水にありますし、いろんなものはあるにはあるんですけども、のびのびと体を動かして雨の日に遊べるような施設がないという状況はありましたので、それについては改善されていると思います。

ただ、申し訳ないんですけども、やはり地域圏でお互いを補っていくということが大事ですので、島田市長さんからお伺いをしたら、静岡市からものすごい人数来ているということでしたので、島田市には感謝を申し上げたいですけど、逆に言うと静岡市民の皆様には遠くまで行っていただいて申し訳ないですけど、それを一つひとつ、それについても改善をしていきたい、改善していつているところです。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。はい、NHKさんお願いいたします。

◆NHK

すいません。ちょっと、1点細かい確認なんですが、先ほどのPFASの監査請求に関して、市長が住民監査請求を「監査委員事務局が退けた」っていうように、確かおっしゃってたと思うんですが、これ、「監査委員が退けた」ではなくて、「監査委員事務局が退けた」っていうことになるんでしょうか。

◆市長

いや、事務局とは言っていないと思いますけども、監査請求に対して、事務局といえば、事務局ですよ。ちょっと正確な、

◆NHK

要は、委員は事務局に入るのかどうか。

◆市長

入りますね。組織としてという、静岡市監査委員事務局に住民監査請求が提出されていますので、それに対して、監査委員が、正確に言うと、まずは提出は監査委員事務局に提出されます。それで、その内容について、監査委員が決定するというのが正確です。

◆NHK

プロセスはそうですね。

◆市長

ですから、監査委員事務局が棄却したということではなくて、あくまで監査委員がその棄却を決定したということが正確な表現になります。

◆NHK

監査委員が棄却してるっていうことですね。

◆市長

監査委員による決定です。

◆NHK

わかりました。

◆市長

通知は事務局から通知になりますけど、決定そのものは、監査委員が行うということになります。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

すいません、インターナショナルスクールの関係で、一点だけ細かいところで確認なんですけれども、この想定する学校は、義務教育の認定だとか、あと高等教育の修了の資格っていうのもできる、取れるような形にするということではないのでしょうか。

◆静岡市長

一条校というのが義務教育関係のところにありますけど、それではないです。なので、義務教育の過程とは違うコースということになります。したがって、日本の小学校に行った形にはならないということになりますけれども、以前、そこについては、なかなか厳しい判断もあったんですけど、今は国としても容認する方向というふうに理解しています。

◆静岡新聞

例えば、高校までそのインターナショナルスクールを卒業すると、何か国際的な大学の、こう受験するような資格を得られるような形にはなるということですか。

◆市長

そうですね。そこでそういう受験資格の試験を受けて、それによって国際的な、世界の大学に行ける資格は取れるという状況になります。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい、その他よろしいでしょうか。では、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。

◆市長

はい、どうもありがとうございました。

◆司会

ありがとうございました。次回は 5 月 9 日、金曜日、午前 11 時からの予定となります。よろしくお願いいたします。